

# 10年後に安心して生活できる町をつくるために

10月10日に、たてしな“ずく”りの会—立科町暮らしづくりの会—の委員4名、内藤生活支援コーディネーター、アドバイザーの浦野千絵さん、立科町地域包括支援センターの職員が、住民主体の活動について学ぶため、佐久市内山地区で行っている集いの場「十日会」を視察しました。

この日の十日会では、地区公民館で地元のお寺の和尚さんの「今ここで心豊かに生きる」というお話を聞きました。

「十日会」は、内山地区住民が集える居場所や相談・支えあえる仕組みをつくっていきたいとの思いから、平成28年1月に住民が立ち上げた集いの場です。

毎月10日に、10時～12時まで、JA内山支所の一角や公民館を借りて、おしゃべりや体操、うどん・饅頭づくり、歌の会、そば打ちなどを、時には地域の方が講師になり、行っています。

平成29年11月から民家を借りて、毎週水曜日9時～16時まで地域の方が自由に利用できる居場所「いずみの家」を見学させていただきました。

支えあって安心して暮らせることを目指し、その仕組みづくりの一端として、歩いて行ける場所に子供からお年寄りまで自由に集える居場所づくりをされている内山地区の方の思いや取組みに触れることができました。



いずみの家

## 新しい風(町長コラム) ②5

米村匠人

早いもので今年も、イルミネーションの美しい瞬きが灯り、クリスマスソングが流れ、一気に年の瀬の足音が聞こえてきています。

1年365日をどの様に過ごしてきたか、あまりゆっくりと振り返ることなどしないことが多いのではないのでしょうか。私の子どもたちは、今は家から離れていますが、保育園・小学校・中学校などの行事に参加するたびに立科の子どもたちが成長していく姿を見ると本当にうれしくなり、この子どもたちの未来に向けてしっかりと町政を進めなければと改めて感じています。

農作物も天候に悩まされながらも緑豊かな時期から収穫も終盤を迎え、皆さんも今年の恵に感謝されていることでしょう。

「光陰矢のごとし」と申しますが、公務に追われた一日一日の積み重ねが、もう1年経つのかと年の瀬を迎えるこの時期に改めて感じています。子どもたちの健やかな成長や農作物の豊かな実りなど「人と自然が輝く町」ふるさと立科に今年も感謝し、今後も町の発展に尽くして参ります。